

令和6年度第2回与謝野町多様性を尊重し合う共生社会づくり検討委員会
議事録まとめ

日時 令和6年10月11日（金）午後3時30分～午後5時39分

場所 加悦保健センター元気館2階視聴覚室

出席者（敬称略）

渋谷 節子	前田 洋佐	澤田 将樹	後藤 公一
市田 孝史	足立 英子	西原 新介	青木 学
村田 晋太郎	後藤 昌典		

欠席者

—

町 長

—

オブザーバー

—

事務局

福祉課 田辺課長	社会教育課 小谷課長	住民税務課 吉岡課長	住民税務課 後藤主任
----------	------------	------------	------------

1. 開会あいさつ（渋谷委員長）

（省 略）

2. 令和6年度スケジュール（予定）について 資料1

（事務局）

前回までの進捗に合わせてスケジュール（予定）を修正。

3. 協議事項

多様性を尊重し合う共生社会づくりの推進について（答申内容をグループワークを実施）

①振り返り

・ 諮問内容 資料2

・ 多様性を尊重し合う共生社会に向けて

（令和5年度第1回検討委員会（渋谷委員長）） 資料3

（事務局）

資料2 諮問内容の確認と資料3 令和5年度第1回当検討委員会で委員長が

らお話いただいた「多様性を尊重し合う共生社会に向けて」の概要を確認したあとで、委員を A グループ（子ども、高齢者、障害者）、B グループ（女性、性的少数者、国籍）の二つに分けて「②多様性を尊重し合う共生社会とは」と「③多様性を尊重し合う共生社会を推進するための課題」について、順番にグループワークを行い意見出しをする。

「②多様性を尊重し合う共生社会とは」と「③多様性を尊重し合う共生社会を推進するための課題」について出された意見は以下のとおりである。（※グループ内での議論は省略）

「②多様性を尊重し合う共生社会とは」について、グループワークで出された意見

A グループ

◆子ども ◆高齢者 ◆障害者

◆子ども

- ・どんな子どもも等しく教育を受けられる社会
- ・子どもは社会の宝として社会から尊重する社会
- ・豊かな遊びを自由に展開できる場があること
- ・希望をもってみんなが生きていける社会（子どもが・・・）
- ・子どもの視点で大人社会を振り返る社会
- ・子どもの人格が平等に保障される社会
- ・今も未来も共に生きる者として尊重し合う社会

◆高齢者

- ・高齢者が安心して助けを求められる社会
- ・生きてきた中での経験に基づく価値や考えが尊重されること

◆障害者

- ・障害のある方が特別扱いされない社会
- ・困っている人が居れば助ける人が増えればいいなあ
- ・普通の人として扱ってほしい
- ・自分の性質をよく知り、希望を周囲と共有し実現できること

◆全体

- ・住み慣れた地域で生き生きと暮らせる社会

- ・ 生き生きと暮らせるとは
 - ① 社会の構成員が
 - ② 人格が尊重されている
 - 偏見や差別がない
- ・ 学びやチャレンジの機会を望む人に提供される社会
- ・ 誰でも居場所があり参加できる社会

Bグループ

◆女性 ◆性的少数者 ◆国籍

- ・ 自分ごととして考える
- ・ 相手のこととしっかり理解すること
- ・ 住民同士の交流
- ・ 助け合い
- ・ 自己理解
- ・ スタディツアー
- ・ 教育
- ・ 広報
- ・ 罰則

(その他の意見)

- ・ マンガ、ドラマ、映画
- ・ 講演
- ・ 人間社会以外の共生社会からヒントを探す
- ・ 差別のある地域とない地域をデータ化し影響を考える

- ・ 認め合う社会
- ・ 対話
- ・ 多様性が当たり前の社会
- ・ 価値観の共存
- ・ 相互理解
- ・ 意見の尊重ができる社会

- ・ 認める（自分が正解ではない）
- ・ 比較しない

- ・自己開示
- ・身近に存在
- ・縦のコミュニティ
- ・お隣さんと仲良くする
- ・地域行事に参加
- ・集会
- ・コミュニティ参画
- ・全員参加イベント

「③多様性を尊重し合う共生社会を推進するための課題」についてグループワークで出された意見

A グループ

◆子ども

- ・人と異なるといじめられる
- ・いじめ、虐待等早急に対応できる機能的な体制づくり
- ・子どもの実態や課題を大人が正しく理解する
- ・子育て機能の低下
経験不足＝一面？（大人、子ども）
- ・学校、家庭、社会等の連携体制
- ・親世代の育児に関する情報リテラシーの格差、孤立による問題
- ・学校の負担が大きくなっていること（様々な支援のニーズの増加）
- ・親による子どもへの愛が？
- ・子どものいじめに対する保護者の正しい理解の促進
- ・学校の負担が大きくなっていること（様々な支援のニーズの増加）
- ・子どもの人権教育（自分を守ること）

◆高齢者

- ・高齢者＝できない という偏見がある
- ・社会参加できない高齢者の働き方。経験知識を活かせる働き方
- ・高齢者が活躍できる場が社会の中で少ない
- ・自立できる環境の充実
- ・住み慣れた家で過ごすためのサポートが十分でない
- ・障害者が高齢者年代になった際の制度移行の難しさ

◆障害者

- ・ 障害者＝特別な人 という決めつけがある
- ・ 支援者の待遇や安全の確保
- ・ バリアフリーの取組が進んでいない（お金）
- ・ ニーズを把握して支援を行う仕組みの柔軟性の欠如
- ・ 合理的配慮の共有
- ・ 田舎ほどインフラ整備が遅れている

◆全体

- ・ 人権という概念が社会に浸透していない
- ・ 大人向けの人権教育が足りていない
- ・ 就労・労働に関する社会構造の変化、経済格差
- ・ 自分の人権を守る意識
- ・ 働く場所が少ない
- ・ 人権学習の格上げ？
- ・ 活躍できる場所がない
- ・ 心のバリアフリー必要

Bグループ

◆性別（女性）

- ・ 政治政策方針等決定の場など消極的（←女性目線なし 7：3）
- ・ 議員や役職が少ない（←女性目線なし 7：3）
- ・ 男性中心社会からの脱却
- ・ 家事や育児など夫婦間の役割分担
- ・ 給与の違い
- ・ 家事に収入がない

（その他の意見）

- ・ 家庭の中で仕事が多すぎ
- ・ キャリアの分断
- ・ 男女差別をなくす意識改革
- ・ 子育て、仕事、家事との両立
- ・ 子育ての負担
- ・ 社会進出、働きやすい環境づくり
- ・ 社会と家庭を両方任されている政治
- ・ 生理による体調、精神不安定

- ・女らしさ、男らしさという価値観
- ・女性自身のあきらめ
- ・田舎での役割の違い（自治体）

◆性別（性的少数者）

- ・婚姻制度（←これが重要）
- ・子どもを持つ権利も必要
- ・理解及びサポート体制（←開かれた議論が大切）
- ・学校の中からの差別や偏見（←教育）（←開かれた議論が大切）
- ・別コミュニティとなっている（←当事者が隠す）
- ・夫の母からの目線（←他者、社会からの目線）
- （その他の意見）
- ・「常識」「あたり前」という感覚
- ・気持ちが悪い・・・
- ・ウワサ話
- ・なぜ、人が幸せだと言っていることを止めるのか？
- ・テレビの中の出来事
- ・他人事
- ・過去のメディアの間違った取扱い
- ・子をもてない
- ・男性、女性を意識し過ぎない
- ・男らしさ、女らしさという言葉
- ・戸籍制度の変革
- ・他国ではすでに法制化（同性婚）

◆国籍

- ・言葉の壁（←移民者が日本コミュニティにアクセスできない）
- ・観光客はウェルカム、移住者は迷惑
- ・地方参政権
- ・隣国関係
- ・外国人への不信感（←移民者が日本コミュニティにアクセスできない）
- ・異文化を理解するイベント（←移民者が日本コミュニティにアクセスできない）
- ・低賃金や不安定な雇用条件（←移民者が日本コミュニティにアクセスできない）

(その他の意見)

- ・ 入国管理法
- ・ 移民対策
- ・ 法制度の問題
- ・ 日本の中で外国の方へ向けたサポート体制
- ・ 文化の違い
- ・ 説明不足から生じるマナー違反
- ・ 外国人の犯罪者扱い
- ・ 知らない国や文化への恐れ
- ・ 白人、アジア人、黒人という感覚
- ・ 多民族国家の中にもヒントがあるかも

4. 意見照会

与謝野町パートナーシップ宣誓の取扱いに関する要綱(案) 資料 6 - 1

与謝野町パートナーシップ制度 考察 資料 6 - 2 (省略)

(事務局)

前回の検討委員会で、みなさまからの意見をもとに、不明な点などについては他市町に問い合わせるなどして、事務局で協議を重ね、要綱案資料 6-1 とした。ご意見等があればお聞きしたい。

※委員から意見なし

5. その他

小谷課長から 11 月 7 日に知遊館で開催される「人権問題を考えるつどい」について告知。

6. 閉会あいさつ(足立副委員長)

(省 略)

終 了 (17 時 39 分)